十中だより

令和２年７月３日（金）
文責　奈加晃典

めざす生徒像
☆自ら進んで学び、考えて行動できる生徒(確かな学力)
☆勤労と責任を重んじ、礼儀正しく協力できる生徒(豊かな人間性)
☆自他の生命を尊重し、心身を鍛える生徒(健やかな体)

校 訓
自主　協働　剛健

今後の教育活動について

本日プリントにて配布いたしました、今後の学校行事等の内容変更については、新型コロナウィルス感染拡大を防ぐ観点で、例年通りの開催内容では難しいと思われることから、様々な変更をさせていただきました。

今年度においては、行事をなくす方向で考えている学校が多い中、本校の規模であれば、なんとか工夫すれば実施できるのではないかという思いと、子どもたちの頑張りを発揮する場面や機会をできるだけなくしたくないという思いで、考えたところであります。

子どもの頑張りを少しでも間近に見て、声援をおくっていただきたいところではありますが、密を避けるための最小限の縮小と捉えていただき、ご協力をお願いしたいと思います。

ワクチンが開発され、日々の活動が通常通りできるまでは、新型コロナウィルスと向き合い、どう接していくかを考えなくてはなりません。

教育のあり方と、ウィルスの感染を考えた時に、３つの観点が存在すると思われます。１つは「子どもの生命に係る観点」です。緊急事態宣言が出された直後は、まずもって感染を防ぎ、子どもたちの健康を守るということを最優先に考えた行動が必要になります。２つめは、「学習権の保障」という観点です。感染拡大を防ぐためとはいえ、いつまでも休校を続けるわけにはいきません。義務教育として最後となる中学生活において、子どもたちが学ぶべきことはたくさんあります。感染の予防は最大限しながらに、教育活動は行われなくてはなりません。これは、国における経済活動との両立も同じように捉えることができると思います。３つめとしては、「家庭と学校における生活状況の変化による、子どもへの影響」という観点です。前回にも書かせてもらいましたが、休校が続く中での子どもたち自身の精神的なストレス、学校は始まったものの、マスクをずっと付けなくてはならなかったり、密を避けるために友達との活動も制約が続くというストレスもあります。また、世間では家庭内や地域の大人たちが抱えるストレスが、家にいる子どもに向けられ、虐待や放置等の問題もたくさん発生していると言われています。

この３つの観点をどう捉え、どのように成り立たせるかが、今後の鍵となっていくのではないかと思っています。

いつも通りの、体育大会や文化祭で存分に力を発揮し、修学旅行では北海道の新十津川村との交流をして、向こうの中学生と心に残る思い出を作ってもらうような計画もしていました。しかしながら、文化祭でのバザーは中止せざるを得ないですし、体育大会でも接触や密をさけるような種目に限られることから、半日開催となります。修学旅行も、すべてバスでの移動となるため、遠い場所へは行きかねることになります。

特に３年生にとっては、最後の中学校生活になることからも、本当に寂しくもあり、悔しくもある年になってしまったわけですが、最大限工夫をするなかで、できる限りの取り組みはしていきたいと考えます。

保護者の皆様がたにおかれましても、ご不便をおかけしたり、子どもの活動に応援をしていただくこともままならない状況で申し訳ありませんが、何卒ご理解とご協力をよろしくお願いします。

七夕

７月７日はたなばたです。
それはわかっていると思いますが、
どんな日だったか覚えていますか？たぶん小学校か幼稚園の時に、話は聞いていると思いますが・・・

昔々、はた織りが上手なおり姫と、牛飼いのひこ星がおりました。二人は結婚し仲良く過ごしていましたが、楽しいあまり仕事をせずに遊んでばかりになったため、神様が怒って天ノ川の両端に引き離しました。しかし、可哀想なので年に一度の７月７日だけ会えるように許しました。という内容です。

中学生はもう一歩踏み込んで天体的にも覚えましょう。

夏の夜に東の空を見上げると、「夏の大三角形」という三つの明るい星を結ぶ三角形が見えます。はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイル、こと座のベガです。おり姫にあたるのがベガ、ひこ星にあたるのがアルタイルです。

笹竹に短冊をつるし、願いを書くようになったのは江戸時代頃からと言われています。

星が綺麗に見える十津川ですから、ぜひ夏の夜空を見上げてみましょう。
そして、一日も早くコロナウィルスの感染拡大が終息し、また元の生活ができるように、願いを書いてみてはどうでしょうか。